

AA 1998003151

大市内 1998年(平成10年)4月21日 火曜日 第1頁

刃物による子どもたちの犯罪が相次ぐ中で、大阪市教委は二十日、市立の小学五、六年生と中高校生を対象にした有害玩具に関するアンケート結果をまとめた。

ナイフを学校に 持ってきた 3.3%

ナイフなどの危険物を学

校に持ってきた経験がある

子どもが三・三％いたこと

が分かった。ただ、調査で

はカッターナイフなどの文

房具とハタフライナイフを

区別しておらず、所持した

理由も聞かないなど、ナイ

フ所持をめぐる子どもの意

識を把握する点ではあいま

いさが目立つ。市教委は

「詳しい調査は今後、各校

の判断にゆだねたい」とし

ている。

市教委は二月九日付の各

学校長あての通知で、アン

ケートの実施を求めた。

回答を寄せたのは、小学

生三万三千九百三十六人

(二百五十三校)、中学生

四万四千四人(九十七校)、

高校生八千五百二十八人

(二十一校)の計八万三千

四百六十八人(三百七十一

校)。

その結果、「ナイフを持

大阪府教委が小・中・高校生にアンケート

所持の中学生 6.3%

三％、高校生五・三％だっ

た。府の条例で有害玩具

となっているエアガンに

ついては、小学生一一・八

％、中学生二一・七％、高

校生七・三％が持ってい

た。

「ナイフなど危険な物を

校内に持ってきたことがあ

る」のは小学生二・四％、

中学生四・〇％、高校生三

・六％にのぼった。「ナイ

フに興味があり、収集した

いと思っただ」と答えたの

は、小学生一一・七％、中

学生一〇・〇％、高校生七

・六％だった。

所持品検査について市教

委は、全校で一律には実施

しない方針で、「アンケー

トの結果を受けて各学校長

が判断する」と説明してい

る。今後は、子どもの所持

品に対する保護者の関心を

高める指導にも力を入れた

という。